



<教育目標>

あたたかい心 ゆたかな知性 たくましい身体

高き希望に（第五中学校だより）

平成30年12月25日発行

No.11 校長 矢口 仁

支えるということ —アナリストの役割—

校長 矢口 仁

いろいろあるんだな にんげんだもの
いろいろあるんだよ いきてるんだもの 相田みつを



ポインセチア

明日から冬季休業日となります。この一年を振り返り、新しい年への希望をふくらませてほしいと思います。

今年の漢字は「災」でした。平昌五輪での日本人選手の活躍に始まり、夏以降は、記録的な猛暑、台風の襲来、大雨、大地震等の自然災害が多く、多くの尊い命が奪われてしまいました。辛く、悲しい話題の多い年だったように感じています。

さて、今月8日に、日本の柔道代表チームのアナリスト（戦術を分析して、選手に伝える仕事）である鈴木利一さんをお招きし、「私の役割」という講演をしていただきました。

アナリストの仕事はたくさんありますが、そのうちの「相手の戦術の分析・審判の癖の分析」や「選手のモチベーションを高めるためのビデオの作成」等の話を中心でした。柔道は日本のお家芸で、メダルを取って当然という雰囲気があります。そのプレッシャーの中で選手は戦っています。その選手の技術や体力を高めるコーチ、精神面、健康面をサポートする人たちと共に、アナリストはICTをフル活用して選手を支えています。一人の選手をオリンピックに出すために、何人もの人が陰で必死に働いているのです。

印象的だった言葉は「支えるということは、支えられているということ」でした。生徒の皆さんも、保護者や友達、先輩後輩、先生、……と様々な人の支えによって、安心して学校へ通えます。私たち人間は、支え、支えられて生きているのだということ、改めて実感しました。以下は、生徒の感想の一部です。

○ 「どんな人も支えられている。」という言葉が、心の中に響いています。この言葉の重みを改めて知った気がします。一人のために何十人、何百人という人が関わっているということを考えると、人って一人では生きていけないのだなと感じました。

災害の多い年でしたが、救助に向かう人、ボランティア活動に取り組む人、経済的支援をしていく人……様々な人が支え、支えられて社会を復興させようとしています。周囲の人に感謝しながら生きていくことを忘れないようにしたいと思います。

来年はよい年になりますように！ 皆様、どうぞよい年をお迎えください。